

設計監修者：株式会社医療福祉建築機構 佐々木邦彦

設計者：株式会社大林組 橋本康則、奥田 覚、田畑博章

施工者：株式会社大林組 甲賀一也



建物外観

建築概要

建設地：静岡県熱海市東海岸1-2他

建築主：国際医療福祉大学

設計監修：株式会社医療福祉建築機構

設計：株式会社 大林組

施工：株式会社 大林組

竣工：2005年5月

建築面積：3,574㎡ 延床面積：23,230㎡

階数：地上8階、地下2階、高さ：30.2m

構造種別：鉄筋コンクリート造

選評

本建物は、静岡県熱海市の海岸に面する急峻な傾斜地に計画された地域の基幹病院の役割を持つ総合病院であり、41m×102mの平面形を有し、地上8階地下2階の鉄筋コンクリート造である。また、当該建物は急峻な傾斜地に接し、その傾斜地の巨大な片土圧に対し、安全性を確保するため、擁壁とその背面に設けた斜め型永久アンカーにより支持させている。その擁壁は地下構造に緊結されており、上部建物は土圧から開放された構造計画としている。

地下構造と上部建物との境界を免震層とした免震建物とすることにより、災害時にも医療機能が保全される高い安全性を確保している。

同時に、当該敷地の特色である相模湾の眺望を有効に生かした病院施設を可能にし、癒しの環境に配慮した明るい施設となっている。

当建物は免震病院施設として、特段に新しい形態あるいは建築計画を提案しているものではない。しかしながら、厳しい敷地形状にも拘らず、巨大地震時における病院施設の機能性確保のため、免震建物の実現に向け、技術的、施工的および経済的困難さを克服して実現したことは、免震建物の適用範囲と有効性の拡大に寄与すること大である。よって、ここに作品賞（特別賞）として賞する。（小幡 学）

免震化した経緯及び企画設計等

国立熱海病院を国際医療福祉大学が附属熱海病院として継承し、病院として運用を続けながら、老朽化した建物の全面建替を行った建設計画である。地域の基幹病院としての重要な役割を担い、最先端の医療サービスを提供し、海岸崖地の立地条件による相模灘の絶景を楽しむ「癒しの環境」を提供するよう計画した。当敷地は東海地震の指定区域であり、病院を利用する入院者や患者に向け、災害時に医療機能が保全されるよう安全性の高い免震構造が採用された。

技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

本建物の特筆すべき点は、非常に特殊な敷地条件を克服して実現されたことである。海岸に面する急峻な傾斜地に計画され、大きな片土圧を受けるため、建築空間の確保を目的とした架構形式および擁壁の計画は、建築計画との整合を図るうえで通常の免震建物とは異なっている。上部建物は地盤の傾斜に合わせ、三層にわたる各レベルに免震層を設け、建築擁壁および基礎に斜め型永久アンカーを配置し、建物を土圧から開放し有効な建築空間を確保した。さらに海風の影響を受けやすく、台風の接近が多い地域でもあるため、強風による揺れを抑えるブレーキダンパーを日本で初めて採用した。そのほか免震装置には天然ゴム系積層ゴム、オイルダンパーおよび新技術である巨大地震時に生じる積層ゴムの引抜き力を低減する引抜き力制御ベースプレートを採用した。



施工状況

